

內外新報

第千一號



西垣文庫 特  
 文庫 10  
 7352  
 5



特 文庫10  
7352  
5

西頭文庫

内外新報第廿一號

慶應四年閏四月廿四日



四月申旬の以休勢邊の港と出帆志くし高船と乘  
りてゆりたる所人の活し又出帆の前日十五筑前  
の軍艦其港に入津せり其中又士官多く乗を能く居  
たりし其船の奥にお九條殿下其外の者をかろり  
た多し船形も然るに仙臺より會津退討としく兵と  
出し多し其兵白川を以て宿陣せし其會津の勢  
に河の仙臺勢敗走し多し故に世船を以て接兵を催

従事人多し大坂より中むくりの赤屋と借ら終し  
よし

一 町方又配場町人熟人数多  
○ 去年九月改め江戸市中の人口戸籍洞帳の写

四拾万七千零六拾六人

世帯数拾万二千五百九拾

但し家持地備店備石仕等返の負数

内 男 五拾万八千九百五拾九人

女 五拾万八千五百零七人

一 寺社門外町人熟人数多

八万二千九百九拾七人

世帯数五万零七百五拾

内 男 四万零九百四十二人

女 四万零四百五拾四人

通計五拾二万八千四百六拾三人 ○ 電報拾二万二千八

百五拾

内 男 五万九千九百零五人

女 五万八千八百六拾七人

外出稼の者

男 二万九千九十七人

女 一子零拾九人

在の為歳近の人負あく世化支配遠の町人終及者每  
町宅少くも武家の家來の世殺よりくは

○

申介新聞廿四号に載せらるる音密の悲代括囊報と記  
すく或人の一封書亦我社中ニ投與せり始より新聞の  
益盛大あるに實し終より各報の重複多きに責むる言  
實は理ありと雖ども撰者一手ニ出づるに似く亦之を  
如何ともするを其の意固成社之を每まきり受せり史を  
介篇の固より申介の羽翼にして雜報亦内外の教吹と

を極めく復出を嫌ふと雖ども於偶合らるるを免まは況  
や頃者に湖新聞遠近新聞新報事略の類筆出しと既ニ  
六七種の多きよ玉きり安んぞ終く之を防くも或得ん  
や然まども其甚しきに玉くハ我々全文を棄換し之  
を横濱の伏稿ニ託し或ハ英佛の写本と矯たり造意の  
圖画を挿入する者ありとすく其撰採如何をや當ニ  
新聞報告の旨報を失ふのそんれんハ是をしく稗官不  
正の書と同じかしむ惜むるの甚しきありんばや我  
甯慮らくて世弊一旦止まばあは相倣ひ遂ニ根藝終極  
人せしむ厭こしむるの由は即ハ各局の衰滅をく付

つて今更のつて然るれば則今日の盛なる誠又喜ぶるべしと雖  
 ども安んぞ明日の衰へざるを保せんや是を我曹の深  
 く憂へざるべしとる所なり異くの將來刻成の互ひに吾  
 率と交易し有無を悉照せんを彼又倅のあるに世は  
 省き世は裁まるを彼又剛を勢めく公正にゆし踏襲の  
 弊ゆるししめを則倫敦府百六十隊局の多きも亦企て  
 く而して終まらば一豈困化の一盛なりとせや他は一時  
 並刻して冥符暗合するに世俗を以て規正可らざる者  
 あり是我曹の吾社幹事又望む所にして倅せし或人  
 の厚意に答ふる所なり

○四月十一日出福崎よりの来状

仙臺侯人救出湯に八百人程相固め當時合戦を以て白川  
 表の本宮に二本松にありは手分は相成以別に中山石  
 堤邊あり合戦有るに今唯今ありは合津勢頗内輝あり  
 しと中取石引取者重く相固めは松子替く合戦を以て  
 以相馬侯二率松に白傑出し之妻侯白川に白傑出しの  
 中津勅使に位殿毎又官軍薩長勢凡そ四百人程度内  
 退討として清川に白出張統るに山形上の山の人数傑  
 出し相成同所あり我率相始官軍方不勝利の中  
 日天臺藩城中八九分通り焼失扱又官軍清川に引か

以交八日約より長<sup>■</sup>と中地より庄内勢と仍遠合戦相  
 始り右又付山形柳倉天童等大勢操出と相成ひ一を定  
 めり大合戦と成り中巻くやと山形中束山形本庄  
 何れも急ぎ市中不踏家敗及具死か付女子老少の支  
 く在方の退せし中九日上杉侯人殺し人殺引率し板  
 谷池里より高木至以津通の衆約一十日夕方津家  
 老毛利と徳凡二百人程あり高木く止宿今朝出立と相  
 成仙臺に津出く執又津産く鳴よの世度合津征伐と津  
 死扱としく津出張と中事より産く多ふし和勝と相成  
 いたんとい日大勢死す

羽州天童藤城の津流才女二号と出立

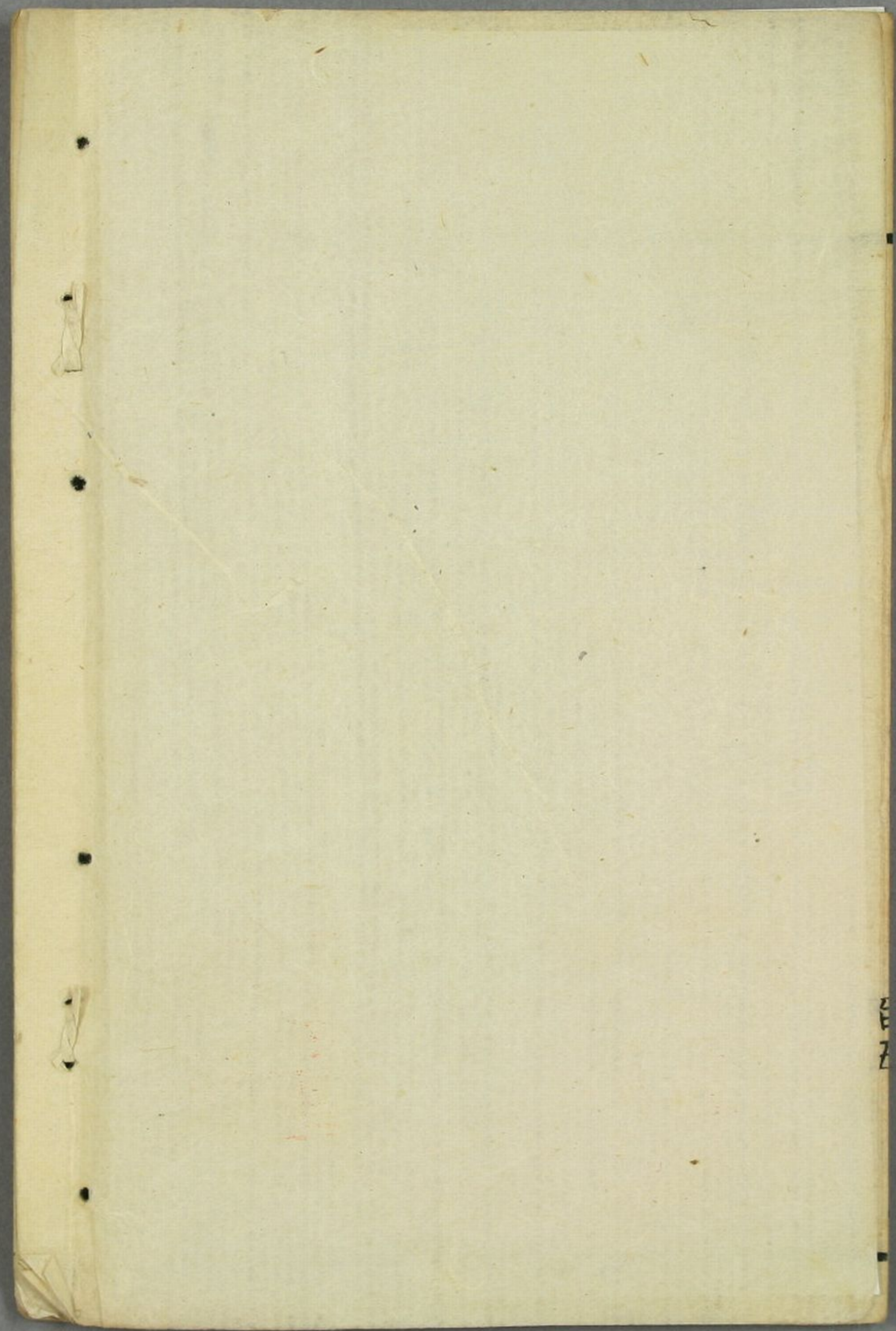
○同日十月十日或る藩士の活し

加勢之家毎信州の大名十藩合津追討を命せし是高田  
 藩の定領津不書くは節有く人殺固め場不引拂ひ家世  
 前存く節相分る合津追討定詳也 仍付ひよし未と津  
 後の致さひひゆども最下尾高兵衛高田を離るること  
 高田中程のふまぐ集り居るひ付殊く命不垂不都合  
 のよし高田く板子あくる高田の藩を人由合津に向ひ  
 以若の宿くまどくとの鳴と津産作

○ 元是德川股肱臣、何心阿諛苟全身、他時若遇天兵起、屠  
盡□□城裏人、

作者不詳

○ 内外新報第一號より第七號まで、至る所、校正出來、  
付近日再板合本、以て多し、賣出し可申也、



2  
7